

ごあいさつ

この度は、ねむの木学園とまり子さんを守る会にご入会いただきましてありがとうございます。私は約 50 年前オランダのヘット・ドロップにある障害を持った人達の「村」やスウェーデン、イギリス、フランスなどいろいろな国に福祉の勉強に行かせていただきました。そしてヘット・ドロップを目標に 1968 年（昭和 43 年）1 月 24 日社会福祉法人の設立が認可されました。そこは 12 人のこども、こども部屋 2 つと調理場、食堂兼教室兼遊び場の広い部屋、小さな書庫、当直の部屋、お風呂、トイレだけのお家でした。

昭和 43 年 4 月 6 日に日本で最初のからだにハンディキャップをもったこどもたちの為のお家「肢体不自由児養護施設 ねむの木学園」を開園しました。それ以来、「やさしくね やさしくね やさしいことはつよいのよ」という言葉の下、すべての人、すべてのものに対して常に慈しみの心を注ぐことが人間として本来の強さであるという理念をもって、たくさんの方の応援の方々に支えられながら、ねむの木学園も歩んできました。時が変わり、場所が変わり、施設が変わり、人が変わっても、この理念は不変であり、その健学の精神と愛は永久に受け継いでいくべきものと考えています。

そして、最初に掲げた目標である「障害を持った人達の村づくり」を実現するため今の掛川市上垂木の土地を購入しコミュニティ「ねむの木村」の建設が始まり、平成 9 年 5 月に「ねむの木学園」は引っ越しをしました。

同年 8 月障害者支援施設「ねむの木学園 感謝の心」の開設、こどもの就労活動の実践の場「喫茶室 MARIKO」開店、吉行淳之介文学館とお茶室「和心庵」、ねむの木こども美術館（緑の中）を建設、正式に平成 11 年 5 月「ねむの木村開村式」を行い、自然という山のみどりの景色の中に建物（造形）という形で絵を描いてきました。とても素敵です。

掛川にきてから東京都名誉都民賞受賞し、「東京都現代美術館」での美術展開催や、その後美術展をご覧くださった朗読協会の方からのお話で、東京芸術劇場で「コンサート」をさせていただいたりしました。そのおかげで、ここねむの木村には他県ナンバーの車もたくさんいらっやいます。

平成 19 年新たに「ねむの木こども美術館 どんぐり」を作りました。のんびりとした自然の山の斜面、牧舎の様な巨大などんぐりの形をした美術館です。一生懸命にならべましたから多くの方々にご覧になっていただきたいです。

これからも、ねむの木学園とまり子さんを守る会へのご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。